

# 横濱タウン新聞

## 植樹で子どもたちが楽しめる森をつくらう

### 荒井沢市民の森愛護会



荒井沢市民の森に植樹する愛護会会員。植えた木の周りはしっかり踏み固め、ウサギ予防の網をかけ、竹の添え木3本で周りを囲う。

横浜から鎌倉市にかけて広がる円海山のふもと、横浜市栄区の「荒井沢市民の森」を管理している市民ボランティアグループの「荒井沢市民の森愛護会(会長 野村政晴)」は3月10日、手入れをしてきた里山に荒井沢の風土に適した5種類の落葉樹を植樹した。

### オニクルミなど50本を植える

午前10時、ごくらく広場には荒井沢市民の森愛護会のメンバー約30人が集合、リーダーの西川さん(愛護会企画担当・県森林インストラクター)の説明を受けたあと、山へ向かう。今年の早春の荒井沢は暖かい。田圃に張られた水はぬるみ、蛙の卵も心よさそう。オタマジャクシがもうすぐ見られそう。どじょうも一匹、又ギを植える。二匹、土の中から姿を見せる。柔らかな日差しの中、ウグイスの澄んだ声が、荒井沢の谷戸に春を告げる。まだ枯れ枝が多い里山に、ツマキチョウも春を知らせて演舞する。



足元に気を付けながら、急斜面に植林する会員。女性会員も男性会員と一緒に作業する。

老の下山田さん(78)も「周りはカカトでこうやって踏むと良く締まるんだ」と土固めを実技指導する。一クルミは7、8年で実が付くだろうから、それまで長生きしなきゃならぬ、実感がこもった冗談の声。「子供たちが楽しめるようになるといいね」。植樹地点は山の上の方に徐々に移動、その場所に適した木を植樹する。

今回の植樹は4年目。一年を通して下草刈り、雑木の伐採、風倒木、古木撤去などの手入れをしたあとに植樹、これまでにコナラ、クヌギ、ホウノキなどを中心に、山桜などおよそ7種類の木を約130本植樹した。

### 音頭『あらい沢』CDを発売



荒井沢の歴史と自然を歌い込んだ音頭『あらい沢』のCDが誕生、振付も付いて発売されている。作詞・作曲は荒井沢市民の森の近くに店を持つ矢沢功巳さん。「荒井沢市民の森をPRしようと自費で作りました」と矢沢さん。

▽編曲／原田博之  
▽歌／江島ちあき(ピコ)  
▽舞踊振付／藤村鶴登代(1,600円)  
申し込みは矢沢さんへ  
☎(8933)3058